

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年3月29日(2007.3.29)

【公表番号】特表2006-516655(P2006-516655A)

【公表日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【年通号数】公開・登録公報2006-026

【出願番号】特願2006-503409(P2006-503409)

【国際特許分類】

A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/537	(2006.01)
A 6 1 K	31/7034	(2006.01)
A 6 1 K	35/74	(2006.01)
A 6 1 K	35/54	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	39/395	L
A 6 1 K	31/537	
A 6 1 K	31/7034	
A 6 1 K	35/74	Z
A 6 1 K	35/54	
A 6 1 P	35/00	

【手続補正書】

【提出日】平成19年2月5日(2007.2.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 配列番号5のポリペプチド；

(b) 配列番号5のポリペプチドであって、その関連シグナルペプチドを欠くもの；又は

(c) 配列番号2のスクレオチド配列によってコードされるポリペプチド
に対して少なくとも95%のアミノ酸配列同一性を有するタンパク質を発現する細胞の成長を抑制する方法であって、前記細胞に対し、前記タンパク質に結合する抗体を接触させることを含み、前記タンパク質への前記抗体の結合によって前記細胞の成長を抑制する方法。

【請求項2】

前記抗体がモノクローナル抗体である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記抗体が抗体断片である、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記抗体がキメラ、ヒト化、又はヒト抗体である、請求項1に記載の方法。

【請求項 5】

前記抗体が成長抑制剤と結合した、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記抗体が細胞障害性剤に抱合した、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記細胞障害性剤が、毒素、抗生物質、放射性同位元素又は核溶解性酵素である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

細胞障害性剤が毒素である、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

毒素が、メイタンシノイド又はカリケアマイシンである、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

毒素がメイタンシノイドである、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記抗体が細菌中において生成される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 12】

前記抗体がC H O 細胞中において生成される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 13】

前記細胞が癌細胞である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

前記癌細胞をさらに放射線治療又は化学療法剤に曝す、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

前記癌細胞が、乳癌細胞、結腸直腸癌細胞、肺癌細胞、又は卵巣癌細胞である、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 16】

前記タンパク質が、同じ組織由来の正常細胞と比較して癌細胞によってより豊富に発現される、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 17】

前記抗体が細胞死を引き起こす請求項 1 に記載の方法。

【請求項 18】

タンパク質が、

(a) 配列番号 5 のアミノ酸配列；

(b) 配列番号 5 のアミノ酸配列であって、その関連シグナルペプチド配列を欠くもの；又は

(c) 配列番号 2 のヌクレオチド配列によってコードされるアミノ酸配列を含んでなる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 19】

前記タンパク質がシスタチン活性を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 20】

(a) 配列番号 4 のポリペプチド；

(b) 配列番号 4 のポリペプチドであって、その関連シグナルペプチドを欠くもの；又は

(c) 配列番号 1 のヌクレオチド配列によってコードされるポリペプチドに対して少なくとも 95 % のアミノ酸配列同一性を有するタンパク質を発現する細胞の成長を抑制する方法であって、前記細胞に対し、前記タンパク質に結合する抗体を接触させることを含み、前記タンパク質への前記抗体の結合によって前記細胞の成長を抑制する方法。

【請求項 21】

前記抗体がモノクローナル抗体である、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 22】

前記抗体が抗体断片である、請求項20に記載の方法。

【請求項23】

前記抗体がキメラ、ヒト化、又はヒト抗体である、請求項20に記載の方法。

【請求項24】

前記抗体が成長抑制剤と結合した、請求項20に記載の方法。

【請求項25】

前記抗体が細胞障害性剤に抱合した、請求項20に記載の方法。

【請求項26】

前記細胞障害性剤が、毒素、抗生物質、放射性同位元素又は核溶解性酵素である、請求項25に記載の方法。

【請求項27】

細胞障害性剤が毒素である、請求項26に記載の方法。

【請求項28】

毒素が、メイタンシノイド又はカリケアマイシンである、請求項27に記載の方法。

【請求項29】

毒素がメイタンシノイドである、請求項28に記載の方法。

【請求項30】

前記抗体が細菌中において生成される、請求項20に記載の方法。

【請求項31】

前記抗体がC H O細胞中において生成される、請求項20に記載の方法。

【請求項32】

前記細胞が癌細胞である、請求項20に記載の方法。

【請求項33】

前記癌細胞をさらに放射線治療又は化学療法剤に曝す、請求項32に記載の方法。

【請求項34】

前記癌細胞が、乳癌細胞、結腸直腸癌細胞、肺癌細胞、膀胱癌細胞、又は卵巣癌細胞である、請求項32に記載の方法。

【請求項35】

前記タンパク質が、同じ組織由来の正常細胞と比較して癌細胞によってより豊富に発現される、請求項32に記載の方法。

【請求項36】

前記抗体が細胞死を引き起こす請求項20に記載の方法。

【請求項37】

タンパク質が、

(a)配列番号4のアミノ酸配列；

(b)配列番号4のアミノ酸配列であって、その関連シグナルペプチド配列を欠くもの；又は

(c)配列番号1のスクレオチド配列によってコードされるアミノ酸配列を含んでなる、請求項20に記載の方法。

【請求項38】

前記タンパク質がシスタチン活性を有する、請求項20に記載の方法。